

4月は母子の健康月間

RI 第2820地区

水海道ロータリークラブ



インスピレーションになる



2018-2019 年度 RI 会長 バリー・ラシン

例会予定 4月17日 移動例会 キックマン野田工場見学 他
4月24日 地区研修協議会報告

VOL.56 No. 32 (通算No. 2590)

2019年4月10日(水) 例会プログラム

点 鐘

ロータリーソング・四つのテスト

ビジター紹介

出席報告

SAA報告

諸報告

幹事報告

会長挨拶

会長エレクト研修セミナー報告

瀬戸隆海会長エレクト



写真提供者:青木正弘会員(伊能忠敬の銅像)

2018-2019年度 会長 染谷秀雄 幹事 古矢 満

創立 1963年9月25日

《例会場・例会日》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 2790

常陽銀行水海道支店内 3階

毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎0297-22-1251

《事務所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 3386

釜久ビル 3階

TEL 0297-30-0875

Fax 0297-30-0876

Email mitsu-rc@lapis.plala.or.jp

URL <http://www.mitsukaido~rc.jp/>

4月は母子の健康月間

例会報告 VOL.56 No. 31 (No.2589) 3月27日(水) 晴れ (司会 鈴木勝久委員長)

本例会での主な事項

◎会長挨拶

◎外部卓話 常総青年会議所

理事長 飯塚義和様

ビジター

常総青年会議所39第理事長 飯塚義和様

専務理事 新岡 彰様

幹事報告 古矢 満幹事

週報受理クラブ なし

例会変更通知 なし

新会員推薦について

山崎哲男氏、小林聡司氏、中山英俊氏、吉川和宏氏 ご異議はありませんでした。4月より入会となります。

会長挨拶 染谷秀雄会長



本日は、常総青年会議所の飯塚理事長、ようこそお越しくださいました。会員一同歓迎申し上げます。後ほど卓話よろしく申し上げます。

まず始めに、3月2日に地区チーム研修セミナーが行われました。

研修セミナーに参加いただきました地区委員の皆さん、大変お疲れ様でした。

また、3月23日、24日には会長エレクト研修セミナーが開催されました。瀬戸会長エレクト、出席していただきありがとうございます。後日、地区委員の方々、瀬戸会長エレクトには、例会でご報告いただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

るしく申し上げます。

さて、一昨日、水海道ゴルフクラブにてライオンズクラブ主催のチャリティーゴルフコンペに参加してきました。当日は天気も良く、水海道ロータリークラブからは11名参加しましたが、その中で、斎藤広巳会員が優勝をされました。おめでとうございます。私は散々な結果で、相変わらず計算機を持ち歩かないと、暗算できないほどのスコアでした。一緒にプレーしていただきました雨谷会員、石塚克己会員、ご迷惑おかけしました。また、これから地区のゴルフコンペや分区のゴルフコンペもあり、私も参加予定ですので、練習に励みたいと思います。

今日お越しいただいた飯塚理事長率いる常総青年会議所は、まもなく創立40周年を迎えようとしています。そんな中、今年の総会で水海道青年会議所から常総青年会議所の名称変更をされました。青年会議所のチャーターメンバーとしては、少しさびしい気もしますが、色々な地域から、より多くの仲間を集め、同じ志で青年会議所を運営していくという意味では仕方がないのかなと思います。また、青年会議所も会員の減少では頭を抱えているようで、会員拡大が急務となっているそうです。

我々、水海道ロータリークラブは1963年の創立から56年の歴史を有します。現在は53名の会員でクラブが構成されていますが、少子化問題や後継者問題などから、会員の獲得が難しくなる時がいずれ来るのではないかと思います。

近年、地区内には、会員数が10名以下のクラブも5クラブあり、クラブ存続の危機に直面していたり、クラブの合併など噂する人もいるような状況です。そういった意味で、我々も、常に会員増強に力を入れ、色々な地域から会員を募っていかねばならないのではと思います。

このことを考えれば、クラブの名称変更という議論が、クラブの中で将来、出てくる可能性もあるのではない

4月は母子の健康月間

かと思えます。

今日は飯塚理事長のお話を聞かせていただき、青年会議所の現状などを知り、個人的に協力できるものはしていきたいと思えますので、飯塚理事長よろしくお願ひします。

外部卓話



常総青年会議所39第理事長 飯塚義和様

みなさま改めましてこんにちは。私は一般社団法人常総青年会議所39第理事長をおおせつかりました、飯塚義和といひます。宜しくお願ひ致します。

※自己紹介

まずは自己紹介をさせていただきます。私は1979年5月10日に坂東市にて生まれました。地元の小中高と通ひ自分の親がやっている飯塚装飾という内装やに勤めました。25歳の時に同級生で幼馴染の石塚君よりご紹介をさせてもらひ、この地域で仕事をして行くのだから横の繋がり求めて入会をさせていただきます。

そして、JC に入つて自分の基盤を作つてくれた1人は、古矢先輩です。入会して次の年に古矢さんは茨城ブロックの副会長の役職でそのセクレタリーを石塚さんとふたりでやらせて頂きました。本来ならこんなペーパーが出来る役職ではないです。いま思うと10年後の未来をみて自分達を引き連れてくれたのだなと思ひ、改めて古矢さんの器の大きさと体の大きさを実感しました。

そこを目指して活動をしてきたのですが、先輩達の背中が大きすぎて全然追いつけません。これからまだまだ頑張らなきゃなと思ひます。

※拡大について

今年の常総青年会議所は15人からのスタートとなりました。いま日本の青年会議所会員は三万人切つてのスタートとなっているみたいです。年間約3%ずつ減少して、3%ずつ減るといふことは20年後には半減するといふことです。しかしそれ以上にこの人数はある臨界点をこえると大幅に減少します。かつて20万人以上いたアメリカの青年会議所は今では1万数千人しかいません。自分たちの青年会議所も臨界点がすぐそこに迫つていひ思ひます。その流れを変える為ひ私自身がメンバーに拡大の重要性を伝えなければいけなひ思ひます。私たちが今なにをするか、なにを変えていくか、それこそが青年会議所の未来を左右する、大きな一歩だと思ひます。それは自分たちだけでは出来ません。しかし、私たちが決断し、行動を始めなければだれもやつてはくれません。先輩がやつてくれるわけではない。後輩にただ丸投げするだけでもなく、自分が少しでも変えていかないといけなひ思ひます。今年度、拡大率倍増を目標に活動してあります。新入会員を多く増やし、新しい風をもたらし、そして新しい組織を作り、新しい取り組みを行うことで新たなメンバーを引き付け、10年後、20年後の未来に置いてもこの青年会議所が地域にとって必要の存在にして行きたいと思つてあります。そうすることにより、我々自身の未来も明るくなると思ひます。ぜひとも会員拡大にご協力をお願ひいたします。

先日、宇都宮にて2020年全国大会の件で宇都宮青年会議所との対話集会有りました。宇都宮青年会議所 OB で宇都宮市長の佐藤栄一様のお話で、日本 JC 副会頭までされたかたで、青年会議所と行政を合致する運動をしていこうと活動をしていひかたでした。そのなかでおっしゃつていたことですが、ひとつづくりがまちづくり。まちづくりが、ひとつづくりである。このことは絶対に変わらないことだ。とおっしゃつてあります。ひとつづくりがまちづくり。って鶏が先か、卵が先かの話になるのですが、私自身ひとつづくりがまちづくりと先にくるのが JC のなかで重要なのかなと思ひます。町がいくら変わつても人がそこに否かたら町は廃れます。町がどれだけ変わろうと思つても人がいないと変われない。つまり大事なものは人なんだ。と言つてあります。自分も理事長の役職をさせて頂き、本当にメンバーの大切さに気づかされました。委員長が居ないと事業は行えませんが、フロアメンバーが居ないと委員会が行えませんが。いままではどこかやつてくれて当たり前と思つていた部分があつたと思ひます。ある先輩が言つていた言葉ですけど、当たりの反対ってなんだ

4月は母子の健康月間

と思う？と言われました。わかる方いますか？答えはありがとうございます。ごはんを食べるにしても、作ってる人が居ないと食べられないし、掘り下げると農家や酪農家の方々が居ないと食材がありません。今自分が着ている服も作ってくれている人が居るから着られるのです。すべての物に感謝をしないとイケないのだなと思いました。

そして、同じ方なのですが、当時委員長を仰せつかった時に、3回ある例会で年間をとおして物語を作ってやってと言われました。正直悩みました。元となるお題をどうしようと考えていたのですが、JC をやって思うことですが、良いめぐり合わせがあるのですね。講演会とか好きではないのですが、たまたま地元で竹下和男先生という方のお弁当の日を推進している方のお話でした。このお弁当の日ですが小学生達に自分たちで自ら、献立、買い出し、調理、をしてもらい学校でみんなで食べるというプログラムです。お弁当の初日子供たちは登校するとみんなで弁当を見せ合あって盛り上がりました。しかし全部一人では作ったとは言いませんでした。お母さんの手が入っていることに後ろめたさを感じているのですね。しかし、2回3回と回を重ねるごとに子供たちは自分で買い物に行き積極的に台所に立つようになり、全部1人で作ったよと言うようになりました。すべての子供たちが一人前になろうとします。自分たちの作ったお弁当にたいして周りのリアクションは子供たちを成長させます。友達をあっと言わせるお弁当を作りたいお母さん相談します。お母さんはメニューを考え子供と相談します。親子が台所で過ごす時間が増えることが狙いです。一生懸命作ったお弁当に対してまずそうと男の子に言われ女の子がいままで、お母さんの作ったおかずは、これおいしくない。これ嫌い。と言ってきたけどその時にお母さん気持ちが分かったそうです。作る側になって初めて作る人の気持ちがわかるというプログラムでした。

そこでなにを伝えたかったかという、スーパーなどで売っているお魚やお肉ですが、魚の開きとかそのままのかたちで泳いでいると思っている子供たちもいるみたいです。ですので、魚を捕る漁師、牛や豚などを育てる酪農家が居るから食材が手に入り、食材を買うのには、お父さんの稼いだお金が必要です。いままで当たり前とおもっていたものは、誰かがやってくれていたから、今あるものに感謝しないとイケないですよ。いう内容でした。そこで自分のやりたいことがみつかりました。今年は食育をテーマに進めようと思いました。いままで普通にお米を食べていましたが食べるまでに様々な工程があるので稲作を通じて子供たちに食育について考えてもらいたいと思いました。まずはメンバーに感謝の気持ちをもつていただけるにはと、自分たちの嫁や彼女に手作りの料理を作って食べて頂くという例会を企画しました。ふだん料理をするメンバーは少なかったのでみんなシックハックしながら料理を作成し改めて感謝の心を持ってもらえたと思っています。そして、稲作をやって頂く議案書を書いていたら、3、11の大地震が起きました。正直稲作を行っていいのか悩みました。ですが、逆に米どころがたくさん被災しているのでコメ不足に陥るかもと思い、子供たちにお米を作って頂き、そのお米を被災地に届けるという内容がプラスされやりがいも増えました。そして、田植え、稲刈り、脱穀、精米を体験して自分たちの作ったお米を食べて頂きました。

お米で余談なのですが、日本がアメリカに戦争に負けた時に、なんで日本人はあんなに気が強いんだ！日本は農耕民族ですのでお米を食べて生活しているからだ！ですのでコメを閉めようということで、むかしの氣ですが氣志團って中がお米ですよ。いまの氣はメですよ。ですので昔より日本人は気が弱くなっているのだとおもいます。

早いものでもう3か月が終わろうとしています。

ここで改めて初心に戻って行動を行って行きたいと思いますので理事長所信を一読させていただきます。

はじめに

公益社団法人日本青年会議所は昭和24年9月3日戦後混乱のなか東京で48名のメンバーで創立され『明るい豊かな社会』の実現を理想としました。現在全国に697の青年会議所があり約3万6000名の会員が活動しています。

4月は母子の健康月間

来年、一般社団法人常総青年会議所は40年の節目を迎えます。この歴史は先輩方のご尽力により築き、継承されてきた私達の誇りであり、また、途絶えてはいけないものであります。だからこそ、私達に「何ができるのか」「何が必要とされているのか」をメンバー全員で検証が必要だと思えます。

ひとづくり

私たちは青年会議所での経験を通して、どのようなリーダーシップを学ぶべきなのでしょう。論者の数だけリーダーシップの定義が存在するといわれるように、確かな答えというものはありません。ただ、一年毎に役職が入れ替わる単年度制を採用しているこの組織においては、どのような立場でも必要とされるのは物事に対する当事者意識であり、主体性ではないでしょうか。

単年度制は、事業の継続性や組織力の維持という点ではデメリットではありますが、この組織がひとづくりに最も重点を置いていることの表れです。様々な役職を経験することで多様な視点を身に付けることができ、人の立場に立って物事を考えるという、「もし自分ならどうする」という当事者意識が芽生えやすい環境を整えています。

主体性とは、自らの意思で行動を起こそうとする在り方です。私たちは一つ一つの行動に、自分の心の底から湧き上がる、「こうしたい」「こうするんだ」という確固たる意思を与えねばなりません。その意思が、その決断が、意欲や情熱というエネルギーを生み出し、自分という人間が走り出す原動力となります。

「自分の本当にやりたいことは何なのか」ということに常に自問自答し、その決断の良いも悪いも全て受け止める勇気を持ち、共に運動を展開していきましょう。

まちづくり

「まち」とそこに住む「ひと」を切り離して考えることは出来ません。日々の生活の中にこそ地域課題があります。自分の普段の「生活」から少し手を広げ、この地域の「暮らし」を良くしましょう。そんなに大きなことからでなくて良いのです。ただ、まちに関心を寄せ、小さな気付きから少しでもまちを良くしていこうという意識が必要です。

このまちで暮らす限り、私たちはまちづくりに持続的・永続的に取り組まねばなりません。自分たちの「暮らし」ですから。そのためにも私たちは、まちのことをより深く知る努力をする必要があります。人は全く知らないことに興味を持つことはできません。地域の様々な取り組みに関心を寄せ、多くの方々と交流が必要だと思えます。地域の現状を十分理解しながらも、青年らしい斬新な切り口で地域課題にアプローチする事が、青年会議所の行うべきまちづくりだと考えます。

40周年準備委員会

この地に青年会議所が発足し来年40周年を迎えようとしています。これも常総市民の方や、これまで青年会議所を支えてこられた諸先輩方に感謝の気持ちを忘れてはなりません。今後45周年、50周年、100周年へと繋いでいくことのビジョンを持ち、メンバー一人ひとりが方向性を共有する必要があると考えます。そして、我々がすべき事はメンバーが個々に成長し、地域に英知と勇気と情熱をもたらすことが必要であると考えます。これまでの歴史を紡いできた先輩方に感謝を込め本年は40周年の準備として、記念事業の計画はもとより、メンバーのみんなが、諸先輩方が、関わりある皆様が笑顔で迎えられるような40周年事業を構築していきます。

会員拡大

青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現を目指し、継続的に社会に働きかける運動体です。私たちが地域により大きな運動を発信していくためにも、確固たる信念を持って会員拡大を進めていかななくてはなり

4月は母子の健康月間

ません。メンバーは組織運営の基盤となると共に、会員拡大それ自体が、自分たちの住むまちを少しでも良くしようとする人財を地域に増やすためのJC運動そのものだからです。

40歳までという限られた時間の中で、同世代が同じ目的に向かって切磋琢磨して築かれる濃い人間関係。それは容易には解けない信頼となり、青年会議所という学び舎を飛び立ったとき、まちを支える力強いネットワークに変わります。

拡大の成功に導くためには、私たち自身が青年会議所の意味と意義を自分の中にしっかりと持つことが重要です。青年会議所がなぜ必要なのか、青年会議所に対する自分なりの意義とは何なのか、熱く情熱を持って語るができなければ、人の心を動かすことは到底できないでしょう。この2つをメンバー一人ひとりが見出せたとき、会員拡大は成功に向かい、組織力の強化・会員の定着率の向上・意欲の向上にも必ずつながると信じています。

会員拡大は、青年会議所が発足以来常に行っている事業であり、今後も組織が続く限り継続していく事業です。組織全体で取り組むためにも、理事長である私が先頭に立ち、メンバー一丸となって会員拡大を成功させるために邁進して参ります。

さいごに

今年度で15年の現役生活の最後を迎えます。今年1年しか出来ない現役生活を、ひたすらに、ひたむきに行ってまいります。そして、事業を成功に収めるためには、コア(核)が重要だと考えます。メンバー一人ひとりが目的意識を持ち、失敗を恐れずチャレンジをして各事業を大成功に収めて頂きたいと思います。

出席報告 石塚克己委員

| 会員総数 | 出席者数 | 欠席者数 | 出席免除 | メーク | 出席率 |
|------|------|------|------|-----|---------|
| 53名 | 39名 | 12名 | 2名 | 14名 | 100.00% |

ニコニコボックス 前島 聡委員長 入金額 24,000円 累計 1,721,000円

先日のライオンズチャリティーゴルフ参加ありがとうございました。飯塚理事長本日よりしくお願いします。染谷(秀)会員

JC 飯塚理事長本日の卓話宜しく! 古矢会員

ライオンズチャリティーゴルフ大会優勝しました。 齋藤(広)会員

25日、今年初のゴルフを楽しんできました。 石塚(克)会員

水海道ゴルフにてチャリティーコンペに出させて頂き17位でした。お疲れ様でした。 山牟田会員

飯塚理事長卓話宜しくお願い致します。 青木(清)・齋藤(政) 各会員

飯塚理事長卓話頑張って下さい。 淀名和会員

飯塚理事長、新潟専務本日は宜しく申し上げます。 前島会員

早退します。 鈴木(茂)会員

例会欠席しました。 石塚(利)・荒井・宮代・大堀・山中 各会員

会報委員会 石塚利明委員長 内村尚史副委員長 軽部良一委員